



Washington Japanese Language School
(祝) 60 周年 ワシントン日本語学校

2018 年 10 月 13 日発行 第 22 号

校長 佐藤 良明

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

[ワシントン日本語学校事務局]

HOT LINE (301)962-7415

TEL (301)962-7410

FAX (301)962-7411



学習状況調査結果報告2

補習授業校児童生徒対象
「海外子女教育⑦」抜粋

3. 帰国予定者と永住予定者の違いについて

●チャレンジ精神や自己肯定感の高さについて

Q8 「あなた自身について」の質問項目のうち、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」では

帰国予定者 24% 永住予定者 34%

が「そう思う」と答えており、永住予定者の方が、チャレンジ精神が高いことがわかります。

Q9 「自分にはよいところがあると思う」では

「そう思う」帰国予定者 53% 永住予定者 68%
15%の差が見られました。

Q10 「自分のことを大切な存在だと感じている」

帰国予定者 41% 永住予定者 56%

総じて、「自己肯定感」が高いことが示されました。

●将来日本で仕事をしたいですか？

Q11 「将来日本で仕事がしたいと思いますか？」

帰国予定者の8割以上が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えました。

一方、永住予定者の中でも25%近くが「将来日本で仕事がしたい」と答えています。英語を第一言語としながら補習授業校で日本語を学び、将来は日本で働くことを考えるグローバルな人材の育成のために、補習授業校が大きな役割を果たすと考えられます。

また、これとは逆に

Q12 「将来日本以外の国で仕事がしたい？」

永住予定者85%以上「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しています。

帰国予定者の場合も約45%に上がり、いずれも世界を舞台にしたキャリア形成が期待されます。

4. 高校生の意識 (回答数 415人)

Q13 「補習授業校に通い続けている理由は？」

(複数回答)

1年生・2年生で特に多い回答を得たのは、「友達に会えるから」「将来の役にたつと思うから」の2つでそれぞれ6～7割でした。次に多かったのが「親が

勧めるから」で1年生・2年生ではほぼ4割、3年生でも2割を超えています。

また、すべての学年ではほぼ2割が「授業が楽しいから」「行事が楽しいから」「日本の勉強をするのが好きだから」と答えており。主として友人に会える楽しみに加えて、将来を見据えて補習授業校に通う中で、さまざまな楽しみを見い出して高校まで通い続けていることがわかります。



「卒業後の進路」では、

Q14 「日本の大学等に進学予定」が1年生では半数を超え、2年生でも40%を上回りますが、学年が上がるにつれて「アメリカの大学等に進学」の割合が増えて3年生では、50%を占めています。

日本の大学へ進学したい希望があっても、実際には入試制度や、日本語力の問題などで断念するケースが多いことも予想され、日本の大学での受け入れ体制拡充整備が大いに期待されるところです。

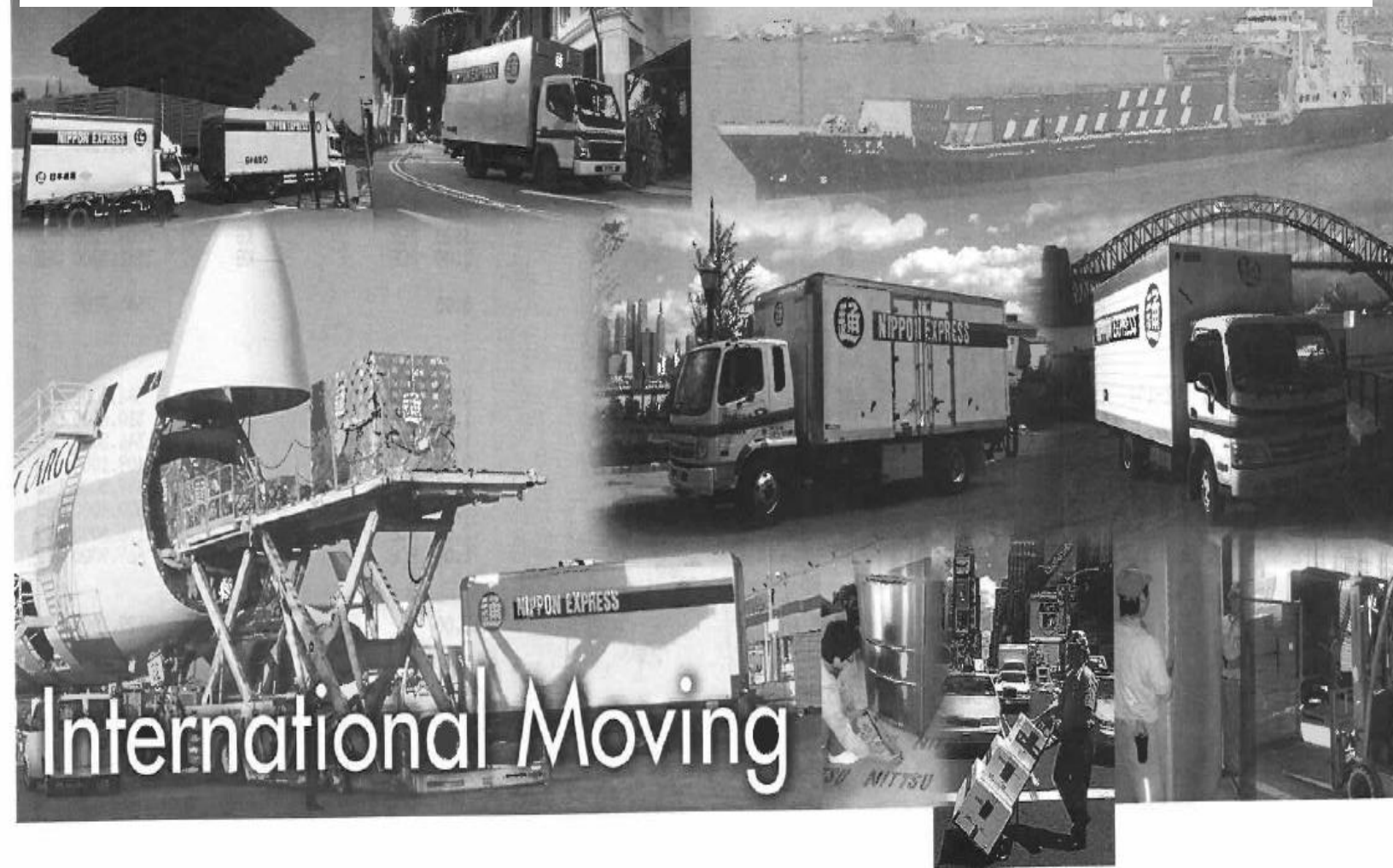
5. 日本国内調査と結果を比べて見ると・・・

今回実施した調査では、日本国内で小学6年生と中学3年生を対象として実施されている「全国学力・学習状況調査」(国立教育研究所)の質問紙調査と共通する項目についても尋ねました。補習授業校と日本国内のそれぞれを比較して大きな差異があった点を紹介します。

Q15 「自分にはよいところがあると思いますか？」

「当てはまる」日本国内小学6年生 39% 中学3年生 28% 補習授業校 62%、補習授業校が日本国内を上回りました。

帰国の際の引越しは、日通にお任せ下さい



海外からの帰国にピッタリな引越しプラン

スタンダードサービス: 梱包から大型家具の輸送までお客様のニーズにお応えします。

スモールパッケージサービス: お荷物の少ない方にお勧めのお得なパッケージサービスです。

お申し込み、お問い合わせは米国日本通運ワシントン支店まで

「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、国内の小学6年生78%。中学3年生71%に対して、補習授業校ではそれぞれ93%、87%と自己肯定感が圧倒的に高いことがわかります。

Q16「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意ですか?」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」補習授業校 小学6年生、中学3年生の合計が約7割で、日本国内の5割を大きく上回りました。

補習授業校に通う子ども達が、平日の現地校の授業を通じてプレゼンテーションや質疑応答に慣れていることが伺えます。現地校では小さい頃から「Show and Tell」などでクラスの前に出て自分の考えをまとめて話す機会が与えられ、授業内でのプロジェクトワークも多くあります。また日本と比べて「間違いを恐れる」ことなく発言する傾向もあるため、このような差異が生まれたのではないのでしょうか。

Q17「一日何時間くらい、日本語のテレビやDVD動画サイトを視聴していますか?」

補習授業校の小学6年生では約65%が1時間未満でした。「4時間以上」と答えたのは、

小学6年生日本国内17%、補習授業校5%
日本に比べてテレビやDVD等の視聴時間は多くありません。

Q18「一日何時間くらいゲームをしますか?」

「1時間未満」日本国内45% 補習授業校65%
補習授業校では、小学6年生の2割以上、中学3年生の3割以上が「まったくしない（見ない・聞かない・しない・持っていない）」と回答、補習授業校の子ども達のゲームに充てる時間は圧倒的に少ないことがわかります。

中高説明会

●開催日時 10月20日（土）

16:00～17:00

●場 所 カフェテリア1

●対 象 小学部6年・中学部3年保護者
児童・生徒

●内 容

「中高説明会」では、現中学部、高等部の教科担任より、国語、数学、社会、小論文の中高の教科内容と学習のポイントについて説明があります。

進級を希望される対象保護者の皆様並びに児童・生徒の出席をお願いします。

写真展

「米国人女性アネットが見た戦後の日本」

●展示期間：10月13日～27日（授業参観日）

●場 所：カフェテリア1

●撮 影：アネット・ファインストーン
1917年3月25日～、101歳

撮影者アネット氏は、戦後、アメリカ進駐軍の一員として日本の戦後復興を担当する傍ら、日本各地の町や村を訪れ自然の風景や人々の生き生きとした暮らしの様子など、アメリカの女性から見た戦後の日本を撮影しました。アネット氏は、ご健在で本校高等部1年生に在籍するストーン・クイン君の父方の親戚にあたり、今回、貴重な写真の展示協力を行っていただきました。

写真展示の主な目的：

過去に日本とアメリカは、不幸な戦争を行いました。現在は、同盟国として共に発展しています。何もかも便利で快適になった生活を送っている日本人ですが、戦後の日本は貧しく、荒廃した町が日本各地にありました。写真は、苦しい生活の中でも人々が明るい笑顔で生き抜いていたことを教えてください。当時の日本を知る貴重な資料をとおして、日米両国の歴史について知り、日米両国の関係がより一層の理解につながることを期待しています。

（下の写真は、展示の一部です。）

